

● 学会発表の内容

TriggerにGn-RHアゴニスト使用での体外受精の成績について

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 中塚愛 徐東舜

■ 【目的】

以前我々の研究で、triggerとしてGn-RHアゴニストを使用することでOHSSの防止ができるこことを報告した。そこで今回我々は、triggerとしてGn-RHアゴニストを使用した場合の体外受精の成績及び妊娠の成績を検討した。

■ 【対象】

2013年10月1日から2015年12月31日の期間に体外受精を実施したAMH 4.0 ng/mL 以上の症例でインフォームドコンセントを得られた103症例を対象とした。同時期にtriggerをhCGとした102症例を比較症例とした。

■ 【方法】

Gn-RHアゴニスト群およびhCG群の体外受精での採卵個数、受精個数、成熟卵子率（ICSI実施時のMII率）、胚盤胞形成個数、良好胚盤胞形成個数および移植総件数における妊娠率と流産率を検討した。平均年齢は、Gn-RHアゴニスト群： 34.4 ± 3.7 歳、hCG群： 35.0 ± 3.7 歳であった。

■ 【結果】

Gn-RHアゴニスト群とhCG群の成績は、平均採卵個数及び平均受精個数は 14.5 ± 7.2 vs. 11.5 ± 6.4 、 10.3 ± 5.8 vs. 8.1 ± 4.9 でありGn-RHアゴニスト群が有意に高い値を示した。成熟卵子率は 81.3% ($793/975$) vs. 85.6% ($662/773$) であり、hCG群が有意に高い値を示した。また、平均胚盤胞形成個数及び良好胚盤胞形成個数は 5.5 ± 4.2 vs. 4.6 ± 3.6 、 2.7 ± 3.1 vs. 2.3 ± 2.6 であり、どちらも有意ではないがGn-RHアゴニスト群の方が高い傾向を示した。40歳以上の分析においてGn-RHアゴニスト群（8症例）とhCG群（8症例）の成績は、平均採卵個数及び平均受精個数は 11.9 ± 4.5 vs. 8.0 ± 3.5 、 9.1 ± 3.1 vs. 6.3 ± 3.1 であり、どちらも有意ではないがGn-RHアゴニスト群の方が高い傾向を示した。平均胚盤胞形成個数及び良好胚盤胞形成個数は 6.5 ± 3.4 vs. 3.1 ± 1.9 、 3.3 ± 2.4 vs. 0.9 ± 0.9 であり、Gn-RHアゴニスト群が有意に高い値を示した。

妊娠に関しての成績では、Gn-RHアゴニスト群とhCG群の妊娠率及び流産率は 45.5% ($66/145$) vs. 46.2% ($67/145$)、 36.4% ($24/66$) vs. 34.3% ($23/67$) であり両群に差はみられなかった。

■ 【結語】

- ①triggerとしてGn-RHアゴニストを使用すると、採卵数が増加する
 - ②体外受精の成績及びその胚を利用しての妊娠や流産に関してはhCGと変わりがない
- 以上より、triggerとしてGn-RHアゴニストを使用することは有効であると考える。